

令和2年11月 日

府中市長 高野 律 雄 様

府中市自然環境調査員会議

会長代行 佐川 タマ江

報告書

府中市自然環境調査員会議は平成24年12月に発足し、平成30年12月から第4期の活動が始まり2年が経過しました。この間、当会議は、引き続き自然環境の保全の推進を図るための様々な活動を行ってきました。

本市の自然環境の現状を把握するため、かつて府中市自然調査団がおこなった「府中市自然調査報告」を参考に調査方法を検討し、調査地点を「武蔵台公園」と定め、毎月1回、武蔵台公園における自然環境調査を実施しました。調査項目は、野草、樹木、鳥類、昆虫の4分類とし結果を積み上げてまいりました。この自然環境調査は今後も継続し、生物多様性の保全に繋がる取組みと考えております。

また、市民に自然環境の保全の大切さを啓発するための活動として、市内各地において自然観察ウォーキングツアー等を実施し、市民一人ひとりに府中の自然に触れてもらい、また再発見してもらえるよう努めました。ほかにも府中環境まつりにおける自然体験コーナーの運営、身近な木の実や木の葉を使った緑化講習会によるリース作りの指導など、多くの幅広い活動を行ってまいりました。

その他、研修会や学習会へ参加し、委員の知識向上にも努めました。

残念ながら、令和2年度は新型コロナウイルスの流行により、これらの活動の一部は中止を余儀なくされましたが、その中においても武蔵台公園の自然環境調査は、感染防止対策を取りながら休まず継続してまいりました。

このほど、第4期2年間の任期を満了するにあたり、その活動を通じた意見を依頼事項に沿って報告します。

記

自然環境の保全の推進を図るため、次の活動に取り組むこと

(1) 市内の動植物の生息状況その他の自然環境の把握に関すること

・武蔵台公園の樹木を守り調査を継続していきたい。

・自然環境に恵まれた府中市の中、植物が大好きでこのお仕事に参加させて頂くようになり、本当に楽しく皆様との色々の出逢いが出来良かったと思っております。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

・1つ1つはむずかしいですが、自然の中で少しずつ変化が生じていることに、関心を持って参加したい。「植生管理ガイドライン」により、保全の方向性がわかりやすくなりました。

・開花・結実した植物の種名、月ごとに選定した開花、結実株数等を記録する事は楽しいですが今年は樹木にナラ枯れの被害が多く見られ下草も多くシュンラン等の開花株が減少したように思われます。

・北側から工事車両や重機の音が出ている所でそれ程鳥の出現は望めないだろうと考えていましたが、ほぼ手つかずの緑地の持つ力なのか鳥が多く、繁殖場所、冬を過す場所を提供していることが解りました。重機の音がなくなり、鳥の種類が増えていることが記録の大きさを痛感させられました。特定外来種の出現回数も気になります。

・武蔵台公園での自然環境調査を毎月行ってきたが、継続した調査を行ってきたことにより、多くのデータが蓄積されたと感じている。この活動は継続して行いたい。

今後は武蔵台公園だけでなく、市内でピックアップした箇所の調査を行うことにより、市内の自然環境を把握していきたい。

・木本では、今年に入ってナラ枯れによりコナラの枯損が増えているが、アカマツ、ケヤキ、クヌギ、シラカシなどには特に大きな変化は見られない。草本ではキンラン、ギンラン、マヤラン、ヤマユリなどは多少の増減はあっても毎年見られるが、ミズタマソウ、ヤクシソウなどはここ数年観察されていない。一方でササ類、シュロ、トウネズミモチやノハカタカラクサ、ツルニチニチソウなどの逸出種や外来種等はますます繁茂している。概ね以上のような状況であった。今この地域本来の生態系を守り育てるための活動が専門家の指導のもとに動き始めようとしている。期待したい。

・虫班の調査のあと、僅かな時間でしたが、山の斜面の林の中から狸が顔を出し、我々がいるのに怖がりもせず下りて近づいてきたのにはびっくりしました。多摩川は狸が沢山いる様で溜糞もあります。以前夕方私の前を土手の「かぜのみち」を横切り、多摩川の河原に消えたのを見ました。武蔵台にも勿論いるだろうと想像していましたが、昼間に姿を見る事が出来たのは…？自然環境の保全が進んでいるからでしょうか。

・野鳥班を担当していますが、毎月1回の定例調査では、翼がある野鳥に出会えるチャンスは本当に稀であります。この地で生息しているキジバト、コゲラ、アオゲラ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロなどは常連さんであります。渡りシーズンに出会える野鳥は非常に稀であります。そんな中で、今期は初めてコサメビタキに出会えました。また、地域住民の方からの情報で、運よく定例調査外でカッコウにも出会えました。一方、外来種については笹藪の中の同じ場所で、ガビ

チョウの他、今期初めてソウシチョウを確認しました。同じ環境を好むウグイスの生息状況に影響が出るのか、見守りたいと思います。

・武蔵台公園の自然環境調査は毎月定期的に行われており、調査データの蓄積もされている。自然環境の把握という観点で成果はあったと思う。その調査成果を生物多様性の保全の観点からどのように活用できるか、あるいは、どのように提言できるかということを考える時期ではないかと思う。一方、市内の動植物の生息状況その他の自然環境の把握という観点からすると、一考を要すべきと思われる。武蔵台公園の調査だけでなく、もう少し広く市内の自然環境状況を把握できないものかと考える。ただし、人数や時間の限られた中で、それをどのように把握できるか難しい課題だと思われる。

・コロナの中であるが観察会を中止せず、少人数で観察することができ、武蔵台公園の昆虫観察・2013年度（平成25年）からの継続が途切れることなく続けることができた。年間の確認種は、190種程度で推移している。武蔵台公園の昆虫観察を2013年度（平成25年）から続けており、7年間の観察結果が纏めることができた。武蔵台公園の環境把握に生かせるのではないかと考えている。

・現行武蔵台公園の調査方法は限界。新たな植物を発見したり、休眠している植物を再生させたい。

1. 今まで踏み込んでいない場所の調査を実施する。
2. そのためには、アズマネザサの刈り込みや、灌木の伐採等植物の生育環境を整備する。
3. 2の作業を進めるには、ボランティアの協力が必要。当会で全面的にバックアップする。
委員も入会してボランティアの活性化を図る。（受け入れられるか）

（2）自然環境の保全のための普及啓発に関すること

・自然環境に関するイベント他を楽しく良いものにするため続けて参加したい。

・府中環境まつりが近づいて来ました。又、参加して下さる市民の方々に喜んで作品をつくり、持ち帰って頂ける事を思い良い作品をつくって下さる事を願っております。ウォーキングツアーも、又楽しみにしております。歩く事、山登りが大好きです。

・今年からの参加ですが、新型コロナウイルスに伴い、まだ一度も参加しておりません。イベントは大ぜいの人々に興味を持っていただく良い機会だと思います。

・ウォーキングツアー、マップも古くなり、特に西部地区では田畑が住宅地に変わって来て

いるので、見直す必要があると思います。

- ・市内の各小学校に総合学習支援として、自然環境保全に関する普及啓発を行ってはどうだろうか。

市内の公園を使用して、四季折々に自然観察会を開催し、自然を身近に感じて欲しい。

- ・環境まつりで大工仕事も初めてという方がほとんどでしたが、府中野鳥クラブ、西武パートナーズとの連携でシジュウカラを巣箱と一緒に見せることができ、自然に興味を持つ一助になる取組みと感じました。レンリ草保護区へのウォーキング等府中市内にはまだまだ自然が残っていることを実感するよい機会でした。

- ・府中環境まつり、自然観察ウォーキングツアー、緑化講習会などは、子ども達や市民の皆さんと「自然」を介して楽しく交流することができる大切な活動である。これらのイベントは昨年までは大きな支障もなく行われてきたが、今年は新型コロナウイルスの影響で幾つかが中止となった。今はコロナ禍の収束とイベントの再開を待つばかりである。巣箱づくりやレンリ草観察、観察会付きリースづくりなどは当調査員会議らしい活動といえるだろうか、今後もこれらを継続、更に発展させていくことが望ましい。

- ・今年（令和2年）はコロナの影響で普及啓発のイベントを行う事が出来ず残念でした。

- ・府中の森公園で実施した親子イベントでは、昆虫の生態について教わりましたが、大人でも目の前で興味深い生態が見られ、大変勉強になりました。このような体験型イベントが子供たちにとって貴重な経験となると思います。そのような意味からも、環境まつりに於けるシジュウカラの巣箱作りに関し、リピーターも見られ関心が高いことが分かります。今後、小学生を対象として実際に公園の木に巣箱の取付や、取外し、及び、内容物確認などのイベントを検討していきたいと思います。このようなイベントができる条件もあると思いますが、早いコロナ禍の終息を願わずにはおられません。

- ・2020年はコロナ禍のため中止となってしまったイベントが多く、普及啓発の活動ができず残念であった。更に残念なことは、自然観察会（ツバメの集団ねぐら観察会）は2015年から6年間も開催されていないことである。「府中市生物多様性地域戦略」のパンフレットには、今も「ツバメの集団ねぐら観察会」が記載されている。多摩川中流域最大のツバメのねぐらだった府中市四谷のヨシ原は、「日本野鳥の会」発行の「ツバメのねぐらマップ」に記載されていたが、2019年に省かれてしまった。「府中市生物多様性地域戦略」のパンフレットに記載されている「ツバメの集団ねぐら観察会」を再開できるようにするため、ヨシ原の保全や保護が必須である。そのためには、ヨシ原保全への市民の参画の呼びかける

普及啓発が必要である。また、ヨシ原の保護あるいは地質改善を河川管理している省庁に市の取組みとして働きかけることも必要であると思う。これら実施するため、府中市と府中野鳥クラブの更なる連携が必要であると考え。

・ウォーキングツアーは、自然環境の保全のための普及啓発のため有効であると考えている。特に、田んぼが年々減少し環境が大幅に変化している現状を見ることも出来る。2020年度（令和2年）はコロナのため中止が相次ぎ、ウォーキングツアーが滞ってしまった事が残念である。燕の集団ねぐらは、環境劣化により燕のねぐらが移動してしまい、観察会が出来ない状況が続いている。こうした状況を市民にアピールする事も必要と考える。また、河川敷の絶滅危惧植物の保護にも力を入れて行きたい。

・上記事業（（1）で述べたこと）を実現させるには、

1. 春秋2回草刈りを実施。

公募して市民の協力を得る。

自治会や近隣の小中学校の協力を得る。

2. 協力者を得る手段として

今まで調査した結果を公表する。

武蔵台公園の現状を踏まえ将来像を設計して公表する。

以上